



086-245-4343
相談電話 24時間いつでも シミジミ

岡山からの電話



写真 スプリット（クロアチア共和国）

はじまり

斎藤 恵子

風いでいる海は
ひとの気持がわかる

波はきらきらひかる
ほとりにいて

他愛なく
いい天気

今日はなにしよう
なんていいあって
時がすぎていく

さっき通り過ぎたバスの窓からは
こどもたちが父や母といて
わらっていた

悔恨ということを知らなかつた日
それが過ぎてから
生きるということが
はじまったのかもしれない

第29回岡山自殺予防シンポジウム

「いきる ささえる 話・和・輪」

11月28日(土) 13:00～

国際交流センター(岡山市北区奉還町)



大学生へのサポート

岡山大学保健管理センター教授
大西 勝氏



今日は大学での状況をお伝えしたいと思います。全国の自殺者は3万人を割り大学生も24年度から若干減少傾向です。大学生は1万人当たり約1人。女子より男子が多い。最高学年、いわゆる就活の年、学部は医学部男子、文学部男子が多いと言われています。既遂者は一般学生に比べ、大学生生活不適応、休学、留年率が高い。保健管理センターでの実際の受診は2割以下。精神疾患の有病率がある方はやはり一般学生と比べると多い。自殺手段は確実な方法を取る人が多いと言われています。

大学生のリスク要因は不本意入学、孤立、不登校、ひきこもり、学業不振による留年や卒論・修論提出困難、就職困難、長期にわたる研究活動や実習での疲弊。更にプラスハイリスク状況として、リストラ、愛情喪失、家庭内不和、近親者との死別、アルコール、薬物乱用、対人関係被害、ハラスメントとか深刻ないじめがあります。

今は、少子化、大学全入時代です。入学時、発達障害や支援の必要な特性をもつ学生が多く入学してくる。最近では性同一性障がい。サポートの人員は右肩上がりに増えています。

1次予防として入学時のオリエンテーション、講座、講演会、何でも相談室、発達障がい学生のための支援室、大学によっては引きこもる学生に大学から出向いての訪問、2次予防として新入生の心理検査実施、ゲートキーパー研修、3次予防として連絡網整備やマニュアル化などしています。学生を支援する教職員にも元気になってもらわねばと、対策の1つに新入生、実習に入る前の学生、欠席の多い学生に心理教育をしたり、教員と面談したり、一次予防二次予防に積極的に力を入れております。

学生同士の結びつきが少し薄く、部活動を辞めて友達ゼロになる留年生をどうするか、また留学生、異文化、カルチャーショック、学位取得などの問題を抱えた学生に対してどうするか、これからの大学の課題かと思っております。

子ども同士のつながりを

元総社西中学校校長

藤井和郎氏



今、総社市では「誰でもが行きたくなる学校作り」、通称「ダレイキ」と呼ぶ活動をしています。平成6年総社東中学校で生徒の自殺があり、それ以来いじめを無くすためいろんな取り組みをやってきました。

まず子どもたちの集まりが、単にモノやヒトの集まりの集合か、目的や目標を共有する組織化された集まりの集団になっているかということです。

例えば中学校の野球部など目的を共有する集まりでは、親密な人間関係があり、リーダーシップ、思いやりの気持ちなど各自が集団に対する責任感を持ち、規範意識が育つ。

ところが、子ども達の人間関係が集合になっている例、例えば掃除の時間、先生に「同じ班の藤井という人が掃除しないんです。先生注意してください」と言う。「先生注意してください」、自分で言える関係ではないのですね。また「藤井君が」でなく「藤井という人が」。距離感が遠い。集合化している例です。

核家族化で兄弟げんかが減り仲直りの経験が減る。人間関係の修復方法がわからない。新たな人間関係を作るのがストレスになり人間関係の固定化が起こる。仲良しグループの友達がいれば十分、そうなると仲良しグループ同士のみ混合が始まり、これがいじめにつながる恐れがあります。

集合を集団に、人間関係構築の実践力を学校教育の中に育てる必要があると取り組んでいます。

「ソーシャルボンド」について。例えば不登校の場合、学校に来ている子どもたちには学校につなげ止めているソーシャルボンド、関係の束、社会的な接着剤があるわけですが、それが切れてしまったらその子は学校に来れなくなっていく、こういう考え方なんです。

「ダレイキ」は、子どもたちのコミュニケーション能力の改善によって人間関係を築いていくことです。具体的には不登校対策の一環として始めたピアサポート活動、それから社会性と情動の学習、SEL(Social Emotional Learning ソーシャル・エモショナル・ラーニング)規範意識を育てる品格教育の4つのプログラムをしています。目的はコミュニケーション能力を高めることです。

ピアサポートの成果で、不登校の出現率は中学校では下がってきている。ソーシャルボンドが多く太くなる様にするのが大切で、集合化した社会を社会集団に作り替えるためには良質のコミュニケーションを大量にと行うことで、こういった取り組みをやっているところです。

精神障がい者の入居支援

阪井土地開発(株)代表取締役
NPO法人岡山入居支援センター理事

阪井ひとみ氏



精神の病気の方、未成年で虐待のある方、高齢者、体の障がいの方、刑務所から出てこられた方、いろんな方がうちの入居者です。サクラソウというアパートで、入居者の皆さんは一つの家族ようになってきています。各々に悩みや過去の事とかあって生き辛い人生を生きてこられた方です。手は入居の時に、大量服薬の自殺未遂をされたとか、首を切ってみたとか、ある程度の様子を聞いています。

なぜこの活動をするのかというと、命を粗末することに腹がたつからなんです。私はある時100日以上入院をし、生きたいのに明日をも知れない命の人を沢山見ました。夜「また明日」と別れて、翌日看護婦さんが「昨

日退院されましたよ」。それは退院ではありませんでした。

うちの入居者のA子ちゃんはリストカットをし、腕を50本くらい切った。A子ちゃんは「だって淋しいんじゃないもん」「じゃあ救急車呼んでもええようにマジックで腕に書いてあげる」。線を2本引き電車の絵を描いてあげました。そのことが彼女は嬉しくてそれからリストカットを止めました。彼女は手を触ってもらったという温もりが欲しかったんでしょうね。

中には大量服薬の人も。夜中の電話で「さっき1週間分飲んだ」。1週間分では死にゃあせんと事前に学習したので「あなたの人生じゃから、もうええんじゃないら死にゃあええが」って。こんな話、電話相談ではできないですが、私は距離が無いので言います。

精神の病の方は基本的に淋しいということがあります。家族から敬遠され戸籍まで削除された方もいる。B子ちゃんは私が「胃洗浄って胃が痛んでそれこそ死んでしまうかもしれん」と言う「えっ胃が悪くなるん？私胃がんなったらいけんからもう飲まん」「薬はようけ飲んだらいけん、みんなあんたが生きとることが大事なんじゃから」。

今ではほとんど大量服薬の人がいない。私はお医者さんにつなぎ、ネットワークを組んでその人を支援するというやり方で住んでもらっています。私も入居者の皆さんに支えら、それがサクラソウのみんなです。精神の障がいの病気になるのは心が優しいからなんです。

岩田町にカイロスという、その人らしく働けるように新しく会社を起業しました。一般雇用です。カレー屋さんとともにオープンしました。ぜひ食べに来て下さい。

私は生きる喜びをもって最期まで生きてもらいたいと願っています。誰にも見送られることなく死んでいくのではなく私一人だけでも見送る人がいたということがその人の生きた証になってもらえたらと、月に1人か2人、東山斎場まで私がボタンを押しに行くんです。

生きている証を作ってあげたいと思って今活動しています。

地域との懸け橋に

くらしき♡心ほっとサポーター

岸本仁子氏



私達はくらしき心ほっとサポーターという、地域の人にこころの健康づくりや精神障がいのことを知ってもらうために行政と一緒に啓発活動に取り組んでいます。倉敷は、倉敷、児島、水島、玉島、真備の5つの地区ごとに活動し、会員数は全体で124名。各地区で毎年こころの健康づくり講座という、精神科医師の方の講演会とか当事者との交流や体験談を聞かせて頂く家族会のお話などあり、地区全体で講座を盛り上げています。

外部との交流では障がい者支援センターや作業所、居場所となる事業所やサロン、病院の入所者の方たちその交流等、訪問をして利用者の方々とおしゃべりをしたり作業をお手伝いしたり、卓球やゲーム、ソフトバレーも一緒に楽しんでおります。

また、学区、地域への啓発活動、交流として、精神障がいへの偏見除去やこころの健康づくりのため、地元の祭り、文化祭、支所などの展示ホールなどに普及啓発のコーナーを設けるなどして来られる方などに声掛けをしてポスターを見て頂いたり、ティッシュを配ったり、サポーター活動の紹介もしています。

学区でのミニ健康づくり講座と言うのを開き、当事者の方や家族の方にも来ていただき、お話を伺ったり、ホットガイドという福祉マップの作成をしたりマスコットやパッチワークの製作、それから自作自演で寸劇を皆さんに見て頂いていて、これがとても好評です。小学校の学校保健委員会へ参加して、子供たちに「困った時に

は誰かに相談しますか？」とか「自分の意見が言えますか？」とか問いかけをしてきました。

この活動を始め、私たちサポーターも自らの中にある偏見にも気づき、それが小さくなっていくという話もあります。自らが理解を深め学んで地域の人たちに伝えること、懸け橋となって人を信じることができ安心して委ねられる社会に変わっていく一歩になればと、自分のできることから少しずつ、地道にコツコツと繋げていく活動を心掛けています。

総社市社協の活動

総社市社会福祉協議会事務局長

佐野裕二氏



総社市では大きく分けて2つの事業、住民主催の地域事業と、課題のある方の地域総合相談支援事業があります。まず地域活動にも幾つかあり、地区の社会福祉協議会は住民の方が自ら活動され、特に地域のふれあい、絆を作るという活動です。そして総社の大きな特色として福祉委員という方が現在573名おられ、住民の方に地域の見守り役や福祉活動を一緒にして頂きます。それにより早期発見早期対応があり、今夏も熱中症で倒れていた方を福祉委員さんが発見してすぐに救急車を呼んで事なきを得たというような事例が沢山あります。地域のサロン活動も活発になり現在市内に207か所、子どもたちのサロン、障がいのある方のサロンなど多彩なサロンが広がっています。

総社市が力を入れている総合相談事業について。今、4つのセンターがあります。障がい者基幹相談支援センター、次に障がい者1000人雇用センター、さらに近隣保護センター、そして生活困窮支援センターです。

障がい者基幹相談支援センターは月に400件の相談をお受けしています。

障がい者1000人雇用センターでは現在883人の方を就労に結びつけました。これは障がい者雇用のあり方を変革する画期的な取組みだと思っております。

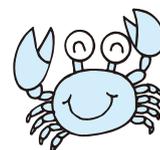
それから近隣保健センターでは虐待対応、成年後見、入居、入所に対する相談、そして犯罪被害者の相談、犯罪被害に対する相談等、月に130件の相談をお受けしています。

そして生活困窮支援センターでは、生活困窮者の自立と尊厳の確保、支援を通じた地域作りということを重点に取組みを行っております。非常勤職員として弁護士がおります。学習支援ということでは経済的に厳しい小学生の学習を大学生がお兄さんの立場で学習支援をやっていきます。

昨年から今年にかけて70人くらいの生活困窮の相談があり、その中で就労に結び付いた方9人、またひきこもりの方が屋外に出て更なる支援とつながった方も8人おられます。学習支援では中学生が希望する高校に入学できた事例もでております。今年度はひきこもりの方の支援の必要性を感じ、民生委員さん福祉委員さんを通し、調査する予定にしています。最終的にはそういった方が社会の一員として社会に貢献できる支援をしていきたいと考えています。

地域支援と個別の相談支援活動を通して、安心して暮らせるよう地域住民の方と一緒に取り組みを増やしていこうと思っております。

(要旨 広報部)



精神の健康問題が増加

依然として40代に多い自殺関連の相談

電話相談
統計
2015年
1月～12月

総受信件数

18,514件(うち男性 10,427件、女性 8,087件)

自殺関連件数

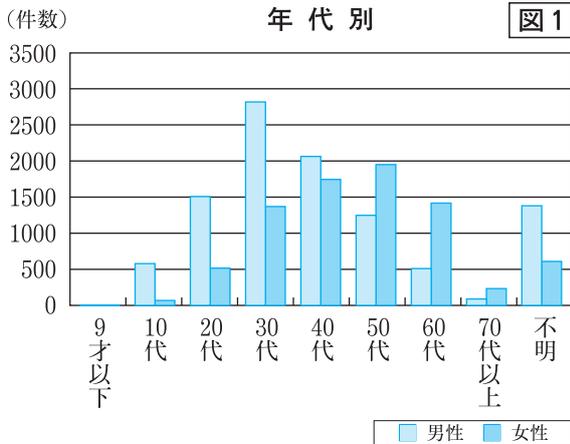
1,783件(対受信率 9.63%)

(数値は全て統計部による)

1、30、40代が増加

全体件数は前年2014年に比べ約700件減少し18,514件となりました。男性がやや減少傾向でした。男女比は男性約56%、女性約44%で前年に比べ女性の割合が増えています。男女合計では30代が最も多く4,000件を越え、次いで40代50代でいずれも3,000件以上ありました。(図1) 30代40代60代が増加傾向で、10代20代は減少傾向でした。

男性では30代が最も多く前年に比べ400件以上増加し、次いで40代で、30代40代ともに2,000件以上ありました。女性では50代が最も多く約2,000件で前年より増加傾向にあり、次いで40代60代30代となりました。



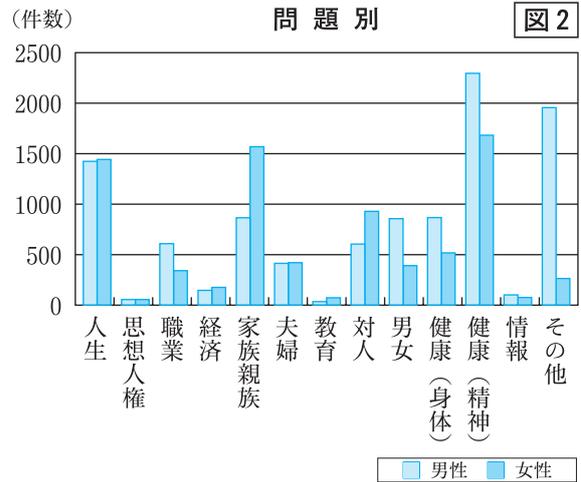
2、男女ともに精神の健康問題が増加

問題別では、男女合計件数で最も多いのは精神の健康問題で約4,000件あり、前年に比べ約300件の増加がみられました。次いで人生問題約3,000件、家族問題約2,500件で、どちらも前年に比べやや減少していました。(図2)

人生問題は男女件数の差が少なくほとんど同数でした。精神の健康問題は男女ともに増加し、前年同様男性の方が多い傾向です、また身体の問題では女性件数の増加が約100件ありました。

家族問題は前年に比べ約200件減少し、男女ともに減少傾向でした。

2015年の傾向としては、他が減少傾向であるのに比べ、精神の健康問題の増加が見られたことでした。



3、30代男性の人生問題の増加傾向が続く

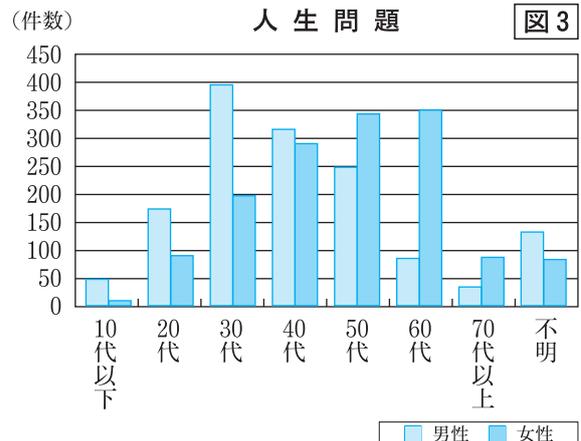
人生問題の全体で占める割合は、かつては健康問題と同じ程度でしたが、2015年は全体の16%でした。

最も多い年代は男女合計件数で、30代40代50代となり、どの年代もほぼ同数でそれぞれ約600件でした。(図3) 人生問題の男女比は50%対50%でほぼ同じ割合となりました。

最も多いのは30代男性で、次いで60代女性50代女性40代男性になりました。前年は60代女性が最も多くありましたが、2015年は30代男性と40代女性の増加がみられました。

30代男性の増加は前年同様で、2年連続増加傾向にありました。20代は男女とも減少していました。しかし10代20代の方にも心配ごとがあればぜひ「岡山のちの電話」に電話をかけてほしいと思っています。

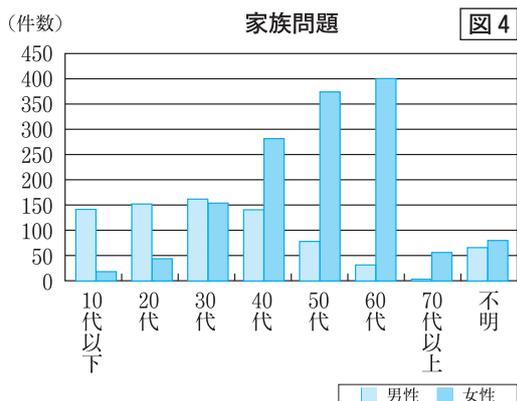
現代は進学、就職、結婚も簡単には出来ない時代ですし、また出来たにせよ幾つもの問題が横たわっていることが多いものです。当然、悩みも生まれるでしょう。そんな時、迷うことなく掛けて下さい。



4、家族問題の 60代女性の増加

家族問題は約 2,400 件あり全体に占める割合は約 13%。前年に比べ減少していますが、60代女性だけが約 150 件増加していました。(図 4) 40代 50代 60代女性の件数は男性に比べかなり多い件数です。中には何度もかけてこられる方もいます。

家族の悩みはなかなか他の人には言いづらいものです。なるべく人に知られたくない悩みでもあるでしょう。40代から 60代の女性は妻でもあり母でもあり老親の介護者でもありといろいろな立場を持っていると思われます。家族の悩みは、その家族には言えず、しかし一人で解決はできないといった難しさがあります。電話を掛けて話してみられませんか。話すことで楽になることがあります。



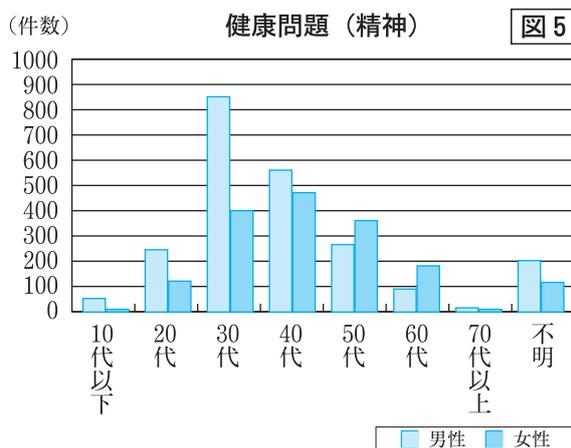
5、30代 40代の精神の健康問題の増加

精神の健康問題では、前年に比べ 300 件以上増加していました。(図 5) 前年が 500 件増加していたので、2年連続の増加です。全体に占める割合は 22% で、最も多い割合です。前年は 19% でした。男女比は男性 58% 対女性 42% と、男性件数の方が多のですが、女性件数は前年に比べ 200 件以上増加していました。

30代と 40代は男女ともに増加し、合計件数はどちらも 1,000 件を越えていました。

30代男性が最も多く 900 件近くあり、次いで 40代男性、40代女性でした。30代男性は 300 件近く増加し、著しい増加でした。30代男性は、全体件数の中でも人生問題でも、また精神の健康問題でも最も多い件数です。

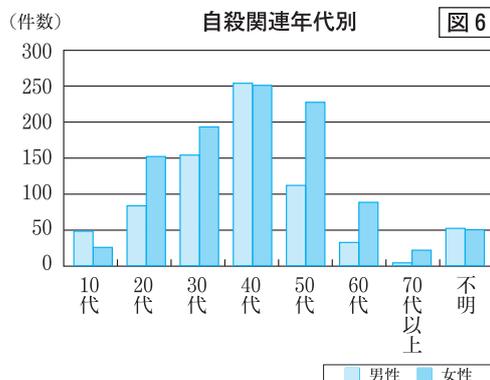
30代の男性の生き難い社会が考えられます。先行き不透明で不安定な雇用や、格差は広がり普通とか中流とかという言葉が死語になりつつある今、それでも未来を考えて進まなければならないところに苦悩があるのではないかと思います。



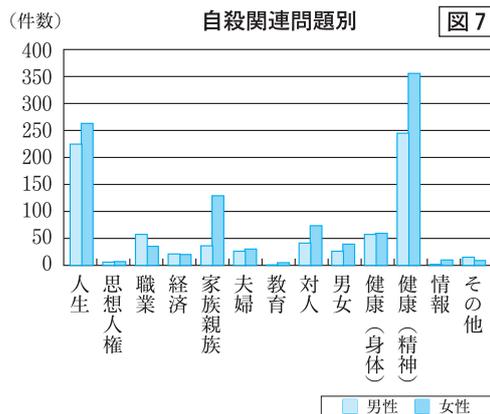
6、今回も 40代に多い自殺関連

自殺関連件数は 1,783 件、対受信率 9.63% で、前年に比べ 180 件の増加でした。男女比は 42% 対 58% で、女性の占める割合が多い傾向です。

年代別では 40代男性が最も多く、次いで 40代女性、50代女性 30代女性の順になりました。(図 6) 前年は 30代女性の方が 50代女性より多かったのですが、今回異なっています。男女合計では 40代が最も多く、男女ともそれぞれ 250 件を越えていました。これは前年と同じ傾向です。



問題別では、男女ともに精神の健康問題と人生問題が多く、しかも増加傾向にあり、ことに女性の精神の健康問題は前年に比べ約 50 件増加していました。女性の家族問題は前年に比べわずかな増加でした。(図 7)



社会の中堅である 40代が精神の健康、人生のことで追いつめられ悩んでいることがうかがえます。しかも増加傾向にあることに、40代が今を生きることの生きづらさを考えさせられます。

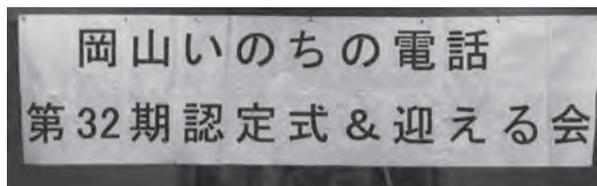
2010年から 2015年までの自殺関連件数推移(図 8)を見ると、2015年はこの直近 6年の中で 2番目に多い件数となっています。前年と比べますと、全体件数は減少していますが自殺関連件数は増加しているのです。



どうぞ、一人だけで悩まないで電話を掛けてお話を聴かせて下さい。私たちは電話の前で待っています。

(文責 編集委員)

32期 相談員認定式・迎える会



3月24日(木) 新相談員13名の皆さんを迎えました。一年間の養成講座を経て、13名それぞれ緊張しつつも「聴く」ことへの思いを語りました。会長をはじめ先輩相談員の厳しくも温かい歓迎の言葉が披露され、和やかなひと時も持ちました。

(単位：円)

	摘要	2015年度 決算	2016年度 予算
収 入	事務費収入	12,000	10,000
	受講料収入	650,000	140,000
	自殺予防シンポジウム	67,000	100,000
	バザー	2,900	100,000
	受託金	2,008,166	3,452,233
	研修参加費	136,500	110,000
	補助金収入	530,260	485,000
	維持会費収入	2,653,666	4,000,000
	賛助会費収入	2,514,427	2,000,000
	その他の寄付金 (共同募金他)	1,850,000	1,350,000
	運用収入	47,940	50,000
	雑収入	6,000	30,000
	収入合計	10,478,859	11,827,233

33期養成講座が始まりました

4月7日(木)より新年度の相談員養成講座が始まりました。受講料を安くしてでも相談員希望者を増やしたいということで、今年から養成講座に対する助成が岡山県から受けられるようになりました。今年の受講生は7名という少人数ですが「人の話を聴く」訓練に取り組んでいます。

2015年度決算報告及び 2016年度予算

(単位：円)

	摘要	2015年度 決算	2016年度 予算
支 出	給料	2,310,000	2,300,000
	賃金	720,000	840,000
	法定福利費	399,035	410,000
	旅費・交通費	320,500	320,000
	備品費 (含固定資産器具)	0	50,000
	印刷費	359,208	400,000
	一般物品費	112,644	150,000
	手数料(2015年は役務費)	307,003	1,322,000
	通信費	231,904	300,000
	光熱水費	409,602	450,000
	会議費	26,615	50,000
	借料・貸金庫・会場費	15,552	70,000
	借料 メンテナンス費用	592,690	500,000
	修繕費	14,199	50,000
	雑費	358,982	270,000
	保険料 (2015年は役務費)	—	80,000
	連盟負担金	182,000	180,000
	市民公開講座	800,000	800,000
	研修費 図書	18,846	30,000
研修費 養成講座	686,585	950,000	
研修費 継続研修	516,000	500,000	
研修費 全体研修	769,693	800,000	
研修費 自主研修	241,157	400,000	
自殺予防シンポジウム	334,390	350,000	
支出合計	9,726,605	11,572,000	
収支差額	752,254	255,233	

岡山いのちの電話協会総会開催

6月18日(土)2016(平成28)年度総会を開催、2015年度事業報告・決算報告、2016年度事業計画・予算について審議を行い、承認されました。永年継続者表彰式ののち、全体研修として森口章副会長から「塊(我執)を“ほどく”ということ」との講義を受けました。

イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン

毎月11日イオンデーのイエローレシートキャンペーンでは、多くの皆さんにご協力いただき感謝しています。今年は4月11日イオンモール岡山店においてギフトカード(58,600円)贈呈式がありました。また、(株)山陽マルナカ(倉敷市内13店舗に登録)でもキャンペーンを行っていますが、4月にギフトカード(293,400円)をいただきました。

毎月11日イオン、マルナカでお買い物をされたら、レシート投函にご協力ください。(マルナカの登録店舗は、中庄、連島、チボリ、真備、老松、勇崎、天城、茶屋町、中島、新倉敷、マスカット、倉敷駅前の各店舗です)少額でも貯まれば大きな額としていただくことができます。どうぞよろしくお願ひします。



共同募金「地域から孤立をなくそう」ささえあいプロジェクト

1月2月の期間限定で行う共同募金の活動ですが、今年の取り組みでは143件1,094,400円のお振り込みがあり、平成28年度1,350,000円の助成金をいただくことができました。維持会員、賛助会員が減る中で貴重な活動資金となっております。ありがとうございます。

事務局日誌

2015年

12月15日 寄付贈呈式 県民共済(堀井・草苺)

2016年

1月9日 第1回自殺対策円卓会議(堀井)
 2月12日 岡山中央警察署協議会(草苺)
 2月22日 犯罪被害者支援に係る職員研修会(草苺)
 2月25日 地域自殺対策連携調整会議(草苺)
 2月26日 県青少年総合相談センター事例研修会(佐野)
 2月29日 生活困窮者自立支援ネットワークフォーラム岡山(草苺)
 3月4日 講師派遣「高齢者からの相談」曹洞宗(宇野)
 3月10日 日本いのちの電話連盟理事会(堀井)
 3月11日 薬物依存基礎研修(2名参加)
 3月12日 第33期相談員養成講座面接
 第32期相談員認定会議
 3月16日 講師派遣「ゲートキーパー研修」西粟倉村(宇野、草苺)
 3月18日 自殺予防のための支援者研修(5名参加)
 3月19日 理事・評議員会(事業計画・予算案)
 3月24日 第32期岡山いのちの電話相談員認定式・迎える会
 3月25日 講師派遣 岡山少年鑑別所(宇野)

4月4日 寄付贈呈式 (株)エムズ・ユー(佐野)
 4月7日 第32期生養成講座 開講式
 4月11日 岡山県共同募金配分(ささえあいプロジェクト)交付式(藤本)
 4月15日 会計監査
 5月8日 理事・評議員会(事業報告・決算)
 5月13日 講師派遣 富山学区民生委員・児童委員協議会(宇野、草苺)
 5月21日 日本自殺予防シンポジウム(堀井、草苺)
 5月22日 理事会(代表理事選任)
 5月26日 連盟理事会(堀井)
 5月27日 日本いのちの電話連盟定期総会、理事長・事務局長会議(堀井、草苺)
 5月28日 全国事務局長研修会(草苺)
 5月29日 中四国ブロック事務局長会議 研修室(草苺、藤本)
 6月18日 岡山いのちの電話協会総会

*自殺予防フリーダイヤル
(AM 8:00~翌AM 8:00)

1月10日 2月10日 3月10日
 4月10日 5月10日 6月10日

◆ 資金ボランティア大募集 !!

あなたも、あなたのお知り合いも、職場の方も、職場も資金ボランティアになって支えて下さい

<維持会員>

個人	A 年額	2,000円
	B	3,000円
	C	5,000円
	D	10,000円 以上
団体	一口	10,000円 何口でも

お振込先

郵便振替 01260-4-15857 岡山いのちの電話
 銀行振込 中国銀行大元支店 普通預金 1233257
 社会福祉法人岡山いのちの電話協会 理事 堀井茂男

<賛助会員>

折々に自由な金額でご寄付下さる方。お誕生、お香典返しなど折々に頂きますと幸いです。

<寄付金控除について>

・法人は、「特定公益増進法人」への寄付金として、一定金額内で損金算入ができます。

・個人は、「特定寄付金」として、支出寄付金額から 2000円を控除した金額と総所得金額の40%の少ない金額の範囲内で寄付金控除の対象になります。

また寄付をした翌年1月1日に岡山市に在住の方は、住民税の寄付金税額控除が受けられます。

第30回 岡山自殺予防公開講演会

2016年11月12日(土)

14時～16時15分
 ピュアリティまきび

「笑いの膏薬貼ったげる」
 雷門喜助氏

※ 岡山県を拠点とし全国各地で落語会、講演会を行っている落語家

市民公開講座 「こころの力」

8月21日(日) 水野スウ氏(紅茶の時間主宰)

9月18日(日) 中村智志氏(朝日新聞社勤務、
 「あなたを自殺させない」著者)

10月16日(日) 中島豊爾氏
 (岡山県精神科医療センター理事長)

※ 会場はいずれもピュアリティまきび、
 時間は14時～16時です。

「岡山いのちの電話」は講師派遣をします

学校、企業、団体などに「岡山いのちの電話」のスーパーバイザーが「こころの専門家」として参ります。

詳しくは事務局までお問合せ下さい。ホームページもご覧ください。

編 集 後 記

4月には熊本地震が起きました。被害の方々には心からお見舞い申し上げます。全国からのボランティアの支援に、心が晴れる思いです。

第29回岡山自殺予防シンポジウム「いきる ささえる 話・和・輪」では各場所での支援活動を聴くことができました。地道に、しかし情熱をもって当たっている方々のお話に元気づけられました。

いのちの電話は、掛けてこられる方のお顔も姿も分からないけれど、話されることをただ一生懸命聴かせていただく電話です。それでも声と声だけで心のひだにふれることができます。その一瞬を大切にしたいと思っています。

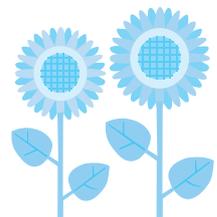
急に暑くなり、体調を崩しやすい季節になりました。健康に気をつけてください。またご支援もよろしくお願い致します。

(S)

自殺予防いのちの電話フリーダイヤル

毎月10日8時から翌朝11日8時まで全国センターが協力して「自殺予防いのちの電話」に取り組んでいます。2015年1月～12月に全国で受けた相談は30,387件。岡山では、そのうちの842件を受けています。

☎ 0120-738-556



発行 社会福祉法人 岡山いのちの電話協会

発行者 堀井茂男

編集 岡山いのちの電話協会広報部

事務局 岡山市北区上中野1-3-5 TEL 086-245-4344

FAX 086-245-7743

ホームページ <http://www.okayama-inochi.jp>